

2017年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2017年度の日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式は、2017年度秋季総合分科会の際の9月12日(火)14時45分より、やまぎんホール(山形県県民会館)にて行われました。

受賞者については、「数学通信」第22巻3号の会報167でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介として、ご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載しています。

(五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。)

特別賞

岩渕司(東北大理准教授)

業績の題目: 非線形発展方程式の適切性の実解析的研究

実解析的な手法をもとにして、放物型非線形偏微分方程式を中心に初期値問題に対する適切性の研究を行っています。解が安定的に得られるための条件や解の挙動について理解を深めようと研究を続けております。これまでお世話になった方々へ御礼申し上げます。

奥田隆幸(広島大理助教)

業績の題目: 不連続群と等質空間の組合せ論

私の研究テーマは等質空間の綺麗な商や部分集合を探すことです。この度は身に余る賞をいただき恐縮しております。これまで研究を継続するにあたり、大変多くの方々に助けていただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。この受賞を励みに今後とも精進して参ります。

楠岡誠一郎(岡山大異分野基礎科学研究所准教授)

業績の題目: 確率解析に基づく基本解の研究の新展開

私は確率微分方程式やマリアヴァン解析といった、総じて確率解析と呼ばれる分野とその他分野への応用の研究を行っています。この度の賞は確率解析という分野が改めて評価された証であると嬉しく思います。今後確率解析の研究が活発になり、更なる発展を迎えることを期待しております。

水谷治哉(阪大理准教授)

業績の題目: シュレディンガー方程式に対するストリッカーズ評価

量子力学の基礎方程式であるシュレディンガー方程式について、偏微分方程式論の視点から関数解析や実解析、超局所解析などを用いて研究しています。お世話になっている皆様と家族への感謝を忘れずに、これからも精進したいと思います。

奨励賞

荒野悠輝（京大理助教）

業績の題目：作用素環的量子群の研究

コンパクト量子群やテンソル圏の解析的な性質について、作用素環論的な立場から研究を行っています。多くの先生方や友人の暖かいご支援により、このような賞をいただけて非常に光栄に思います。この場をお借りして改めてお礼を申し上げますとともに、これを励みに一層精進したいと思います。

石田祥子（千葉大理特任助教）

業績の題目：準線形退化型ケラー・シーゲル系の研究

この度は荣誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。厳しくも温かい目で見守り続けて下さっている先生方、また日頃からお世話になっている多くの方に厚くお礼申し上げます。今後もたくさんの方の事を吸収し研究に励んでいきますので、ご指導のほどよろしく願いいたします。

金光秋博（東大数理博士後期課程）

業績の題目：ファノ多様体に関するカンパナ・ペターネル予想と向井の問題への貢献

ファノ多様体やその上のベクトル束に関する幾何について、多様体上の有理曲線族や森理論等を通じて分類する研究をしています。御指導頂きました先生方、また先輩、友人や家族他多くの方々の支えに深く感謝し、今後もより一層励んでいきたいと思ひます。

佐野昂迪（阪市大理講師）

業績の題目：同変玉河数予想とオイラー系、特に Rubin-Stark 元に関する研究

この度は賞をいただき大変光栄です。よい人との出会い、よい数学との出会いに恵まれていたことが幸運だったと思ひます。これからも楽しく数学を続けられればよいと思ひます。

星野壮登（早大理工学振 PD）

業績の題目：非適切な確率偏微分方程式の研究

特異な確率偏微分方程式の可解性について研究しています。このような方程式では従来の解析に加え、「繰り込み」という操作が必要になります。

この度は身に余る賞を頂き、大変光栄に思ひます。日頃お世話になっている方々に、厚く御礼申し上げます。

三浦達哉（東大数理博士後期課程）

業績の題目：曲げ，付着，張力エネルギーの形状に及ぼす効果の数学解析

自然界を記述する数理モデルに対し，解の性質や形状を調べる研究をしています．現在は特に曲率と形状の関係性に興味を持っています．少しでも新機軸を打ち出せるような面白い研究を目指して参ります．改めまして，これまでお世話になったすべての方々に厚く御礼申し上げます．報恩謝徳を胸に一層研究に励んで参ります．